

学位被授与者氏名	岡野 愛 (おかの めぐみ)
論文題目	江戸時代における舶来動物と社会
論文審査結果の要旨	<p>本研究は、これまで未整理で一括して捉えられていた享保 13 年 (1728) のゾウの舶来に関する諸史料をその形態から書付、通行記録、刊本の三種に分けて、一つ一つを丹念に読み解くとともに、その成立過程、内容に関する書誌学的な比較を行った極めて実証的な研究となっている。とりわけ第一章において 18 世紀に外国からゾウが献上された記事が 19 世紀幕末の対外的危機という政治的理由から再注目され利用されたことを指摘した点、第二章において大名領である岡山藩領の通行記録と幕領である気賀宿の通行記録を比較した点、第三章において刊本がゾウに関する知識のみならず仏教・闇斎学派・朱子学派の思想的立場からのゾウの舶来の利用であったことを指摘した点など独創的かつ意欲的な点は評価されよう。</p> <p>しかしながら本研究は、以下の点において未熟な点が指摘される。</p> <p>まず「序節」におけるゾウの舶来に関する研究史の論点が本研究において十分に踏まえられていないように思われる。第一章においては、19 世紀の対外的危機を背景に海外との通航に慎重であるべき根拠としてゾウの舶来を挙げたとされる『視聴草』自体に对外関係への心得としての執筆意図があるのかなどの書誌学的考察が行われていない。第三章においては、山崎闇斎門下の中村三近子による『象乃みつき』(国立国会図書館所蔵)に山崎闇斎の思想が現れているという根拠が『象乃みつき』の本文のみであり、山崎闇斎の著述との比較が必要である。</p> <p>また最終審査においては、①「法華開結の二経」とは「法華経と開結経」ではなく「法華経の開経・結経の二経」であること、②吉宗がゾウを献上させた意図は軍用のためであり、19 世紀の『視聴草』『通航一覧』における評価の低さは贈り物としての利用価値の低さから来るものではないのか、③題目にある社会とのかかわりを取り上げるためには、ゾウの舶来や通航の記録だけではなく、他の様々な史料を取り上げる必要がある、④詳細な分析にもかかわらず研究史を踏まえた新しい知見が示されていない、などの指摘があった。</p> <p>平成 24 年 2 月 16 日に審査員 3 名による最終試験と審議を行い、表記の結果とした。</p>